

R04年度学校関係者評価(中学校)

学校評価(中学校)

教育目標 (誠実な人間、良き社会人の育成)

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	学校としての反省・改善策	評価点	意見等
1	教育目標	A	サレジオ生が教育目標に向かって成長するよう、学校生活を構成した。中学入学前に全員が創立者ヨハネ・ボスコの小伝を読み、「誠実・勤勉」のイメージを共有した。校長の定期的な訓話や職員会議冒頭の予防教育法研修を基に理念を共有し、年間を通じて継続的な振り返りを行った。	A	自己評価に同意
2	宗教指導	A	聖書の教えを基礎として、カトリックミッション校の歴史と伝統を堅持し、生徒の発達段階や時代の変化に適切に対応する宗教行事・宗教教育を行った。サレジオンシスターズ創立150周年の記念の年を、オンラインでついで姉妹校と共にお祝いしたり、密を避けながら、聖母祭や創立記念ミサ、クリスマス会などを対面で実施することができた。	A	自己評価に同意
3	教育課程	A	国語・数学・英語の3教科は標準より多く授業時数を設定し、小論文やCLILなど特色ある授業を行っている。今年度からプログラミング授業も本格開始し、児童生徒はめきめきと力を伸ばしている。MYPカリキュラムや評価の仕方を全保護者に書面で配付し、全学年のユニットや評価を公開した。コーディネーターによる保護者説明会も定期的に実施し、教育課程に関する理解が徐々に深まってきている。	A	自己評価に同意
4	評価・認定	A	教員の匙加減ではなく、IBの評価規準に基づく評価を心掛けた。明確な評価規準と課題を先行提示することで、児童生徒は要点を整理して学習し、その結果を具体的に確認できた。実力テストは、もはや評価の中心ではなく、各種評価材をもとに、多面的・総合的に評価する努力を続けている。しかし、単元計画と総括課題が有機的に繋がっているか、低い評価にならぬよう適切な指導を続けたか、常に己に厳しく検証せねばならない。	A	評価規準は説明されているが、子供達にとっては理解が難しい様子で、教科により説明に差があるようです。
5	教科指導	A	全教科で、MYPユニットプランナーに基づく年間50時間以上の探究授業を実施できた。探究の問いや単元のゴールなどの設計図によって探究授業が構造化され、inputとoutputのバランスの取れた、活発で深い学びを目指している。一人一台のiPadも、学習状況の見える化と学びの蓄積、他者との意見交流を助けている。一方で、総括課題の質と量が一部の生徒にとって大きな負担になっている現状がある。個別最適化された学びを引き続き研究したい。	B	総括課題が出る自宅でも取り組む時間が長いので、他の自主学習をする為に睡眠時間が短くなる時期がありました。
6	授業研修	A	効果的な総括課題の設定や授業の展開の仕方、より適切な生徒へのかかわりを探究するため、年3回、研究授業を行った。他の教員の実践を鏡にして、自分自身の実践、プランナー、総括課題の設定を振り返り、改善へと促す貴重な機会となっている。カトリック校に勤める教員としての心構えは、創立記念日に梅村司教様よりご指導頂いた。「存在を丸ごと認めること」の尊さは、再三再四確認し続けねばならない。	A	自己評価に同意
7	学級経営	A	担任は職員室ではなく、できる限り自分の教室で過ごすアシスタントを実践することで、クラスの変化やニーズを肌で感じ、丁寧に対応した。担任は、生徒の自主性に基づきよりよい学級経営ができるよう、多くの話し合いをもち、具体的実践までサポートした。ウィズコロナが進み、保護者には授業や行事で生徒の輝きをオンラインではなく直接ご覧頂く機会が増え、対面での保護者会や面談にて学校での頑張りをお伝えすることができた。	A	自己評価に同意
8	生活指導	A	担任・主任・生活指導部・教頭・校長で連携し、常にチームサレジオに対応した。思春期的課題が露わとなり、様々な問題が発生したが、粘り強く対話と指導を続けた結果、多くが改善と成長に向かった。問題発生時に、すぐに保護者に来校頂いて情報共有、対応方法を協議し、協力を得られたのは実に有り難かった。	A	自己評価に同意
9	進路指導	A	カレッジステージのコース選択のために、アドミッションポリシーや学びの特長を整理し、ミドル全体で共有した。特に8年教員は、生徒が「自分らしい学び方」を見つけ、志望理由書を何度も書いて主体的にコース選択に臨めるよう指導した。カレッジステージのコース長による動画説明も分かりやすく、小学校も含め広く配信することができた。コース選択最終希望では、エグゼ希望が40名近くに達し、学園の大きな変化を感じる。	A	自己評価に同意
10	安全管理	A	今年よりリニューアルした防災マニュアルを学園全体で点検した。小・中高単位からP・M・C単位に一新されたマニュアルを全員で見ながら、安全管理上の盲点がないか、校種を超えてさまざまな目でチェックし、改善案を提示できた。健康管理に関しては、P・M・Cそれぞれの保健室の連携が進み、日々の傷病やコロナ対応など、多くのことにより細やかに対応できた。	A	自己評価に同意

R04年度学校関係者評価(中学校)

11	校務分掌	教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。	A	全教員が与えられた校務分掌を責任感をもって果たしている。分掌間のヨコの連携も円滑である。広報募集活動では、英語科やMYP型授業での連携が好評を博した。反面、ICT業務は頻繁に起きるタブレットの破損や機器トラブル対応など、過重な負担感はある。反省をもとに、よりよい校務分掌、施策につなげたい。	A	自己評価に同意
12	行事運営	校内外で行われる学校行事は教育目標に照らして十分にその役割を果たしている。	A	はじめてP・M・C単位の運動会を実施することができた。練習段階から共に時間を過ごし、ミドル生が一体となる新しい行事が誕生した。キャンパスツアーは、コロナ感染拡大のため本来は「実施なし」だったところを、上智大学の厚意で3年ぶりに特別に実施することができ、心から感謝している。教育目標に基づいて実施される行事の数々が、8割方戻ってきた。来年度は新入生研修やキャリア教育の一環としての職業体験も実施できることを期待している。	A	自己評価に同意
13	管理運営	学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。	B	各部署の柔軟な発想や提案を吸い上げ、新しい時代の新しい教育を目指した。宗教部を土台に、教務、MYP/研修、生活指導など、柱となる分掌責任者が、学園全体の指針を理解した上で、現場を導く努力をした。それでも革新ゆえの軋みはある。限られたマンパワーの中で、どのように教員の悩みを吸い上げ、サレジオの教育にMYPをどのように根付かせられるか、試行錯誤が続く。	B	自己評価に同意
14	施設・設備	本校の施設、設備は生徒が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	A	4号館2階のリフォームが進み、ラーニングコモンズやコミュニケーションスペースなど、生徒の学習を促進する環境整備が進んだ。日々生徒のために奮闘する教員のためにティールームがつくれ、ゆとりをもって生徒と向き合えるようになった。9月の大雨洪水時には屋根や壁からの雨漏り被害があったが、その後、屋上や外壁の防水工事が進んだ。今後は大丈夫であることを期待したい。	A	自己評価に同意
15	課外活動	放課後の部活動や生徒会活動を通じ、教師が常に生徒と「共にいる」よう努めている。	A	放課後にはサレジオメソッドを実施し、e-learningやBasic / weblio English、各部活動など、生徒それぞれの必要に応じた学習や活動に向かえるよう工夫を凝らしている。生徒会役員ミーティングもこの時間を活用し、よりよい企画・運営につなげることができた。	A	自己評価に同意
全般、総合評価			A	コロナ禍3年目、徐々に「学校」が戻ってきた。コロナ禍はICT利用を加速させたが、その結果、学力や人間力は向上しているのか、継続的な検証が必要である。徐々にリアルな活動や経験を取り戻し、来年度、今一度サレジオらしい全人教育に立ち返れることを期待したい。また、今年度より、MYP「認定校」としての歩みが始まった。授業スタイル、学び方、評価の仕組みは大きく変わった。この新たな学びが生徒のワクワクを刺激し、「成長しているという実感」につながることを願っているが、課題も浮き上がってきた。誰一人取り残さず大切にするために、チームとしてより緊密に連携したい。	A	様々な変化の中で大変努力されていると思います。来年度もどのように子どもたちが、そして学校が進化していくか楽しみにしております。 13の管理運営のみがB評価でしたが、先生方の評価と僕自身評価を同じく全てA評価だと思います。3月から、マスクが個人判断になったり、5月から、コロナが第五類に変わることで、また大きな転換になってきます。コロナ前のように、子どもたちがのびのび学校生活ができ、さまざまな経験をしてほしいと思っています。引き続きよろしくお願致します。 コロナ禍で生徒一人ひとりの心身の成長のために熱心に教育にあたってくださっている皆様の姿勢にこそから感謝いたします。これからも学園の精神のうちにこそ尽力させていただきますようにお願いいたします。

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

サレジオの伝統の上に、MYP教育を重なる新しい教育への挑戦。見えてきた課題を、来年度は改善できるよう努力したい。評価規準の件は、従来のものをかみ砕き、児童生徒、保護者が評価規準や項目をしっかり理解できるよう心がける。そのために、評価規準を教員同士見せ合い、分かりにくい点やチェックし合ったり、児童生徒にアンケートを実施したりする。総括課題の件は、授業内で総括課題に取り組み、提出できるように心がける。そのために、年間行事予定と授業時数を正確に把握し、見直しをもって計画的に行えるようにする。また、各教科の総括課題の質と量が適切に設定されていたが、今年度の実践の検証を行う。